

## 平成 26 年度第 1 回 西木地域審議会議事録

日 時 平成 26 年 7 月 7 日 (月) 13 時 35 分～15 時 30 分  
場 所 西木総合開発センター 2 階 農林研修室  
出席委員 門脇健郎会長、橋本左武郎副会長、橋本敦子委員、武藤晟平委員、  
齋藤瑠璃子委員、佐藤一委員、武藤清茂委員 (7 名)  
欠席委員 佐藤雄孝委員、沢山純一委員、阿部昭司委員、鈴木富士男委員、  
布谷和好委員、佐藤幸委員、赤倉祐子委員 (7 名)

### 仙北市関係者

仙北市長 門脇光浩  
副市長 倉橋典夫  
総務部長 藤村好正  
農林部長 後藤裕文  
西木地域センター所長 高橋貞二  
観光課長 高橋和宏  
商工課参事 大山肇浩  
総合産業研究所参事 佐藤人志

### 事務局

企画政策課長 平岡有介  
企画政策課参事 戸澤浩  
企画政策課主査 藤原正輝  
企画政策課主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
  2. 会長あいさつ
  3. 市長あいさつ
  4. 議事  
案件 1) 所得 10 % 向上の具体策について  
案件 2) 湯前山森林公園の再生・整備と活用について
  5. 閉会

### 内 容

#### ・会長あいさつ

遅れてしまい大変申し訳ございませんでした。大変お忙しい所お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。大分暑い夏空が続いております。さて地域審議会ですが、所得 10 % 向上の具体策、湯前山森林公園の再生・整備の活用の議題になっており

ます。現地視察をしながら色々と話し合いをした経緯もあります。当局の説明を聞きながら、審議してまいりたいと思います。どうかご協力よろしくお願ひしたいと思います。プラスして、副市長、ご就任おめでとうございませう。今後ともよろしくお願ひいたします。

#### ・市長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。26年度1回目であります。よろしくご協議をお願ひ申し上げたいと思います。今会長からお話がありました通り、倉橋副市長が7月1日から着任しております。後ほど事務局から本日のメンバーも含めて紹介をいただきたいと思ひます。この後もよろしくお願ひいたします。

何点かお話しをさせていただきたいと思ひます。まず1点目ですが、7月3日に発生した秋田スギバイオエネルギーセンターからの出火について、誠に申し訳ありませんでした。無火災の先頭に立って取り組んでいる所でしたが、声掛け役の仙北市から出火となつてしまい心からお詫び申し上げたいと思ひます。バイオマスエネルギーセンターはご存知のとおり稼働がうまくいかない状況の中で、様々な対応をしておりました。今回の出火はその対応とは別の場面でした。コンベアでガス化炉にチップを運んでいく工程がありますが、コンベアの下にチップのかすが堆積し、それが炭化していくという状況があったようです。消防、警察の見解ですので、素人は上手く説明できませんが、低温出火という状況だったと推測されるということでした。しっかりと議会にも報告し、対応を考えていきたいと思ひます。その際、にしき園に入所している92名、クリオンのお客様14名、周辺集落世帯の方々の一時的避難がありました。これはアセトンという揮発性の高い気体があったために、危険という判断で一時的避難をしていただきました。特ににしき園の皆様がにしき園に戻るときは、消防団の方々がお椅子を押していくという大変心強い、ありがたい対応をいただきました。この場をかりて、お詫びと御礼を申し上げたいと思ひます。それから2点目は、秋田内陸縦貫鉄道の酒井社長から佐々木社長にかわりました。これは2年間赤字2億円という部分は達成できているものの、このままの状況では内陸縦貫鉄道は立ち行かないという事があり、JTB東北に席を置きながら、出向という形で社長にお迎えできたのが佐々木琢郎氏です。これまで以上に観光面で佐々木社長には誘客活動に力を入れてほしいと思ひます。3点目はA I U、国際教養大学と仙北市の国際交流プログラムの締結です。起点になっているのは、西木地区のグリーンツーリズムの活動です。西木地区のグリーンツーリズムの活動には、各場面で国際教養大学の学生、先生方も含めておいでになっていただいております。地域の活力になる所在の洗い出しをしていただいている状況です。これをしっかりとした形で組織的に計上していきたいと思ひがありまして、国際プログラム、交流プログラムというものを策定し、この後更に深くお付き合いいただきたいと思ひで、鈴木学長と締結させていただいたという状況であります。外国の方々のお迎えについて、ご協力をお願ひしたいと思ひます。最後になりますが、国道105号の改修、高速化に向けた取組みについてです。既にご存知の方もいらっしゃると思ひますが、県議会で600万円程度の調査費がまもなく6月議会が終わると同時に可決になると思われまう。この経費

は、大覚野峠がはたして今の状況のままでいいのか、それともトンネル化することが適切なのかという観点で調査活動を行う状況です。いずれ具体的に国道 105 号の高速化が進んでいるという事は間違いないと認識しております。この後、地域がすごく変わってくる可能性があります。それを見据えて地域審議会の皆様にはご協議いただきたいと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。

議事 案件 1) 所得 10% 向上の具体策について

事務局 柏谷	資料に基づき説明。
門協会長	それでは農業関連から順番に進めます。ご承知おきのとおり、減反がなくなるという状況であります。減反廃止となり対策が必要と思いますが、地域審議会よりもまず行政がどうするかを説明するのが先の様な気がします…。
武藤晟平委員	農業問題と関係ないかもしれませんが、薬草のビヤクシは今どのような状況でしょうか。減反对策で薬草が出来れば、所得の向上になると思いました。
門協会長	減反を再利用するとなれば、薬草を植えるという事もありうるということですね。
門協市長	知っている範囲で説明します。ビヤクシも含めて芍薬（シヤクヤク）、シソの生産に向けて今年から本格的に種まきをしました。ビヤクシについては…。
門協会長	ビヤクシとは何でしょうか。
門協市長	ビヤクシというのは漢方の元となる植物です。それをまず植えました。市内各地で 3 箇所、4 箇所くらいで植えています。ビヤクシがどんな植物かという誰もわかりませんでした。水分もあまりいらず、雑草も出てきます。雑草がどれで、ビヤクシがどれかもわからなくなりました。そこで生薬会社の担当者に来ていただき指導してもらいました。これはとても作りやすいということだったので、どんどん増やせるという事になっています。武藤委員がお話しした様に、耕作放棄地に植えることは十分可能だと思います。3 か年計画くらいで 60 ヘクタールくらいまで広げられるという話もありますが、あまり急がず良いものを作って、そのノウハウを組合の方々に共有し、良質生産していく必要があるということをお話したと記憶しています。

武藤晟平委員	横手はりんごを収穫したら J A に持っていくという事をやっていますが、ここでも同様の意味での組合を作ったという事ですよね。
門脇市長	そうです。仙北市生薬生産組合が 3 月にできています。生薬会社では一定の数量を集めて、ここで乾燥させて本社に持っていくという話になっています。集荷する場所は、現在のところは白岩の組合長の家です。単年度でお金になるかならないかという部分で気持ちの入れようが違うので、まず仮に 1 年草で収穫できるものはお金がでますが、例えば朝鮮人参の様に 4 年～ 5 年かかるというものについては、その間の管理費についても毎年生薬会社から提供されるということでした。
門脇会長	契約栽培ですか。
門脇市長	まずほとんどが契約栽培です。岩手でも契約栽培をしています。
齋藤委員	薬草栽培は特定農作業になるのでしょうか。薬草など力を入れていくものを特定農作業にして品目を増やしてほしいと思います。
後藤農林部長	転作に数えられていますが、市の重点作物には入っていない現状です。その点については検討させていただきたいと思います。薬草の栽培面積を増やして所得につなげるとすれば、重点作物として転作の単価を上げてほしいということだとは思いますが、今年は出来ないので来年度に向けて検討させていただきたいと思います。
橋本副会長	減反対策として様々植えたことがありますが、どの場所でも良いということではなくて、専門的な地域が絶対必要だと思います。その土地に合ったものです。生薬の畑も見ていますが、やはり市長が言ったように草なのか薬なのか分かりませんでした。土地柄があると思います。ただ植えればいいのではなく、指導が必要だと思います。
門脇市長	話の中心からは外れるかもしれませんが、生薬会社の方で国内生産でシフトしたいということで、今行えている状況です。生薬会社の生薬部門について国内生産を増やしている状況ということです。生薬会社の専門員の方については、厳しい状況があります。会社としては出張が相当増えていく可能性があります。生薬会社と提携して、経費については市でも予算化して負担していくという形が良いと思っています。
門脇会長	そういったわかる人を、この地域に養成できないでしょうか。
門脇市長	組合を作った本来の 1 つの目的は、そういった指導者を育成していく

	という考えでした。最初から知識ある人はいませんでしたので、1 からのスタートという状況です。
門脇会長	生薬会社でも出張旅費を払ってこちらに出張させるよりも、ここの地域の人を育てた方がいいと思います。
門脇市長	そういった部分は生薬会社でも考えていると思います。それは行政として、今の地域審議会のテーマなり、サポート面を行政でも地域でも組織をきちっと作っていくという事が1つ必要ではないかと思います。齋藤委員のお話しでは重点作物に認証していくということでしたが、生薬に限らず所得を高めようということの戦略的な作物については、市がちゃんと重点作物化していくということを奨励していくべきと思います。そういった制度や仕掛けを作っていくという提案になっていくのではないかと思います。
武藤清茂委員	それは具体的にはどこでやっているのでしょうか。試験地でしょうか。西木でも行っていますか。
門脇市長	やっています。
佐藤総合産業研究所参事	あまり詳しくはないですが、全域でやっています。
橋本副会長	桧木内の田口さんの畑に、秋田大学の講師がきて20本くらい植物を植えていました。講師料がすごく高いという話がありました。
佐藤総合産業研究所参事	市長が話しておりましたが、講師料については一切市役所からは出ていません。現在は、組合の方々がこのノウハウやスキルを覚えたいという時には来ていただいています。それに対する旅費は負担するという考え方です。講師料はお支払した経緯はありません。
門脇市長	田口さんの畑というのは、NPO法人えがったなあの関係ではないでしょうか。
橋本副会長	植えていたのはラズベリー、ブルベリーといった様なものでした。
佐藤総合産業研究所	田口さんは薬草生産組合のメンバーではなかったはずですので、また別の活動かもしれません。
門脇市長	それこそNPO法人で総務省の1000万円助成の事業に見事合格してい

ます。事業内容としては味噌販売でした。

門脇会長

内容について地域に周知できていない所があるのではないのでしょうか。薬草栽培に関心をもっていないという事もあるかもしれませんが、もう少し地域の方々に周知されるような方法をとるべきだと思います。

門脇市長

作戦としては会長が言ったように、指導者になれるくらいの生産力を持った核になる人を育成するところからスタートしたいという気持ちがあったのかもしれません。集まった数だけ失敗の数も多いと、この後の展開が厳しくなるという思いもあるのかもしれません、いずれ生薬会社の担当者が一生懸命指導をしているので、この状況で底を広げていくという活動になると思います。

門脇会長

このテーマは市長が市長になるときの旗ですからね。もっともっとあの当時話した意気込みで、地域に浸透する様なやり方でやらないといけないと思います。

門脇市長

十分自分もそういった手法で考えていたことも事実です。しかし大きくやると危険が高くなると、失敗することを恐れないという気持ちは変わりませんが、失敗してしまった後にどれだけ良い素材であっても、再挑戦するという意気込みが市民の方々がどれだけあるのかという心配があります。

門脇会長

失敗したら市長に進められてやったのと言われてしまいますからね。

齋藤委員

これは全量買い取りなんですか。

門脇市長

基本的に全量買い取りです。タバコと同じです。

武藤清茂委員

具体的な数字が所得の 10% 向上です。アップでないとまかない訳ですよ。いくらお金が出なければ向上になりません。今までやっているものも、更に 10% 向上しないと当てはまらないということです。何でもいからやれというよりかは、確実にいくら儲かる、アップするという事がみんなに行きわたらないと難しいと思います。確実にこれだけの所得があがるという事が無いと、ただやってみようという事では具体策にはつながらないと思います。

門脇市長

生薬の場合は、所得 10% 向上の柱になるかと言われたら、所得 10% を達成するための 1 つの手法という位置づけでスタートした方がいいと思っています。

武藤清茂委員	進めてから、やはりダメだったということでは大変ですからね。
門脇会長	米を植えていても大した収入にならない時代になってしまいました。このあたりは 1 町歩、2 町歩の百姓です。米よりもいづらか良いという色が見えてこない、なかなか手をかけれないというのが実態だと思います。また高齢化ですので、畑で草をとるのも大変です。
佐藤委員	少子高齢化になってしまいましたが、昔からどこにもあったと思いますが、養蚕もありました。ほうれん草もみんなで取り組みました。何をやるにも指導者が必要です。その部分だと思います。今運営体はきちっとやっていますが、各集落をひっぱっていく人が必要だと思います。あちこちで災害が起きれば地区長や集落をまとめてくれる人がいます。先達では下総さんがいました。そういった人がきちっとやっていかなければ、自分が良いことばかりです。今の薬草についても、誰がやっているかわかりません。良いことは人に教えない。人というのは自分が良ければ良いというものだと思いますが、特に百姓はそうです。そういったことを無くすために集落を引っ張っていく人が必要です。
橋本副会長	すごく難しいと思います。
佐藤委員	そこを行っていくために運営体が作られたと思います。10%や 20%でも難しく進むのではないのでしょうか。昔はお互いの面倒をみていましたが、今はみなくなりました。
橋本副会長	佐藤委員が言うとおおり、自分さえよければ良いという、人に迷惑をかけたくない、迷惑をうけたくない、という世の中になってしまっています。そこを変えなければどうにもならないと思います。コミュニケーション、プライバシーなどあれこれ出てきています。
佐藤委員	大きい農機具についても出来た人は綺麗に洗って小屋にしまっていますが、一生懸命やっている人に貸したり、手伝うという気持ちが無くなってしまいました。行政の指導が不足ではないかと思いましたが。どこか冷たい世の中になりました。
門脇会長	お互いを補い合うという気持ちがありませんね。
佐藤委員	この薬草についても回覧版で教えてほしいと思います。こういった取組をこの地域でやるので、やる気ある人を募る必要があると思います。そういったことから初めていきたいと思っています。進んでいかない

	<p>部分もあるかもしれませんが。市長さんが火災の話をしてしまいましたが、その日の4時半から5時に、西明寺にこれだけの人がいるのかと驚きました。少子高齢化、人がいないと言いましたが、あの時間帯にあれだけの人が集まりました。何かあれば集まれるという事だと思います。この10%も何かあれば集まってくると思います。</p>
橋本敦子委員	<p>佐藤委員の意見に関連することです。たまたま生薬を試験的にやっている家がありましたが、どうしてあの家の田んぼが候補地になったのだろうという話がありました。その方に聞けば、役場に頼まれてという答えです。その時の答えは、みんなが納得するような答えを準備してほしいと思いました。それから上桧木内で環境保全会で草刈りを行っています。集まれば2時間の労働ですが、1時間1000円と手間をもらえます。そうなればこんなに人がいたのかと頼もしくなります。何かしら良いところを付けてやらないと、動かないのかもしれませんが。説明を十分をしたうえでの、魅力を感じるような部分が必要と思います。</p>
門脇市長	<p>生薬栽培の一番最初のスタート地点は、地域運営体や農業関連にお知らせをして、こういった取組をしたいのでお話しを聞きにきてくれませんかという呼びかけでした。例えば地域運営体から声がかかった人だったり、その友達だったり情報発信方法はお任せしていた状況でした。組合に加入したい人はかまいませんという事で、60人ほどの組合員です。なるほどと思ったのは、どうして植えているのかと聞かれたときに、本当の話をすればやりたくて植えているというのが正しいと思います。しかし、一番良い返答としては役場に頼まれたからという事があるかもしれません。そういう事が結構あります。今はやりたいという人たちに、まず苗を配っているという状況です。情報はちゃんと出した方が色んな誤解を招かないということになると思います。</p>
橋本敦子委員	<p>皆が納得できればいいと思います。</p>
齋藤委員	<p>今後やりたいという事であれば、可能ということですよ。</p>
佐藤総合産業研究所参事	<p>はい。研究所に来てください。</p>
後藤農林部長	<p>環境保全を活用していただいて大変ありがたいです。使ってくださいと言っていますが、なかなか使ってもらえないという現状があります。補正もして4000万円ぐらい出しています。無理する必要はないのですが、そういったものを使って、地域の農村整備をしていただくという</p>

のがこの事業の目的ですので、是非活用していただきたいと思います。ただ、皆さん苦勞しているのは会計さんです。なぜ苦勞しているかというと、今日出たので明日お金を出してほしいという方がすごい多いそうです。それでは会計さんが倒れてしまいます。それで実際やめてしまった所もあります。こちらからは言われませんが、2カ月に1回は3カ月に1回というのが理想です。材料費を用意したという事であれば早めで良いと思いますが、手間賃としては最終的な精算が良いと思います。終わって次の年になれば確定申告の準備をすることになります。会計さんの業務量を理解してもらえればありがたいと思います。

橋本敦子委員

今回森林交流体験がありました。参加者から今回で終わりという話を聞きましたが、次の朝の除草作業を体験してみたいという方たちがいました。色々準備しなければ危険だと思いますが、そういった事にも向けていけたらなと思っています。

門協会長

ここでは色々な意見を出してもらっただけで良いのですよね。ここで結論を出してほしいということではないですね。農業関連については色々意見が出ました。では次の観光・商工関連に進みたいと思います。田沢湖角館ルートで内陸線松葉駅がよく利用されるが、地元にお金がおちないため仕掛けを検討してはどうかとあります。これについてはどうでしょうか。

武藤晟平委員

なぜ松葉駅をよく利用するのか聞いてみました。高原に泊まって、松葉駅に降ろして、角館駅でバスが待っているということでした。松葉駅は良く使われます。徳島観光、京都観光、一番近ところでは盛岡です。内陸線に乗せたら、バスが鷹巣で待っていることもあるそうです。使われることは使われますが、瞬間ですね。1時間や30分の余裕をもってきて、松葉周辺で何かを見るということであれば良いかもしれません、その時刻に合わせてくるため、ほとんど滞在時間はありません。外国人が60人くらい来た時がありましたが、車内で食品を売ったら、たちまち売れました。これはすごいと思いました。30分でも1時間でも余裕があつて何か見るという事であればいいと思います。

橋本敦子委員

何かやるすれば旅行会社と提携して、何時の内陸線にこれぐらいの乗客がいるということを把握して、車内販売するというのもいいかもしれません。

門協会長

人が来ているとなればトイレは整備した方がいいのではないのでしょうか。

武藤晟平委員	トイレも古くなっています。
門協会長	お客さんを入れるようなトイレではないのかもしれませんが。人が来ているとすれば、もっと良いトイレを作った方がいいのではないのでしょうか。内陸線の社長に言ってください。
門協市長	今の話はとても面白いと観光課長と話していました。ただ情報が観光課に入ってきていない状況です。
高橋観光課長	実際内陸線を利用しているというのは、情報として入ってきていないです。ただ観光アクセス事業で松葉からのタクシーの乗降者数は入ってきます。高原泊まりの人が内陸線松葉駅から乗車して鷹巣に行くという情報はありませんでした。
門協市長	観光課で聞くのか、旅行エージェントから教えていただくのかはわかりませんが、5分でも10分でも時間がある中で色んな事ができるのかなと思いました。
武藤晟平委員	いずれ来ています。春と紅葉。角館の桜の時期に合わせて高原に泊まるのかはわかりませんが、いずれ先日は徳島観光が来ていました。
門協市長	内陸線ではわかっていると思います。内陸線だけでなく、地域でも儲かってもらおうと思えば、こういったお客さんがくるので、何か作れないかといった話をもらえればいいと思います。そうすれば集落皆で歓迎した気持ちで帰っていただけたらと思います。
門協会長	上桧木内では取り組んでいるようですが、組織的なものがあって地元がもっと盛り上がるようなことが必要だと思います。
門協市長	内陸線の情報は例えば観光課に入るようにして、今度は受けての方です。どこに連絡すればいいのでしょうか。
門協会長	観光連盟の話合いで、そういった話を出して上手くやるような方向になれば良いですけども、みんな自分の観光ばかり頭にあげています。そういった事があるから統合が出来ないんです。そういった話をちゃんとすべきだと思います。副市長はどうでしょうか。
倉橋副市長	内陸線はそれこそ合併した当初は廃線の話がありました。私も大変難儀した記憶があります。存続しようという事になってホッとしていた所です。やはり観光面と地元利用の両面でいかなければ、難し

いと思います。

門協会長

上桧木内もデマンドタクシーを利用されているようですが、若い人たちがどんどんいなくなり、働く場所が無いということがあると思いますが、通える範囲であれば内陸線を使って通えばいいと思います。そういった力の入れ方というか、方法が大事だと思います。地域観光と連盟と行政が一体となって考えていかなければならないと思います。地場産業を活かした農産物、地域資源を活かした商品、サービスの開発につながっていくと思います。例えばこちらで良く話題になりますが、新しい商品を作ろうと一生懸命考えています。慣れた人たちで、角館や秋田の方々が栗料理を作ったり加工品を作っていますが、それより前にいけません。なんとか地元の物を地元で使って、付加価値をつけていきたいという気持ちはみんな持っています。

門協市長

武藤晟平委員の話で、松葉駅を使って内陸線に乗ってもらえる方々に面白かったなと思ってもらえるために、お客さんが来る日がわかったら観光協会に連絡します。

門協会長

栗の甘煮など色んな物を作っています。そういう人達も時間がわかれば持っていけると思います。10分でも余裕をもってきてもらえるように話すればPRにもなると思います。そういった方たちとの提携が必要だと思います。

門協市長

それは一番観光協会がアクセスしやすいと思います。

門協会長

色々話が出来ました。他に何かないでしょうか。地元にお金が落ちるような仕掛けを検討してはどうかとありますが、これは書かなくても絶対お金が落ちる方法は検討したほうがいいと思います。とにかく地域では一生懸命頑張っている方々がたくさんいます。

上桧木内の紙風船上げには何十年前から行っていますが、あそこに行く1つの楽しみは、各集落のテントで売っている巻物や漬物でした。しかし最近は全然でなくなっていました。高齢化により知っている方も少なくなっていました。地域の技術を継承する方法があればいいと思います。上桧木内の集落の方々と話をしましたが、紙風船を実施するのが大変になってきたということでした。ある程度全国的に知られるような行事になりましたが、今絶えてしまうというのは非常に残念です。どうにか維持していこうということで話合いをして、少なくとも西木全体で行うのはどうでしょうか。紙風船を作るのも大変ということでした。それをまずは西木で技術を覚えてやっつけよう。話がとんでしまい申し訳ないが、料理やお菓子も作れる人がいる

ので、そういったものを活かしていけば、地場産業、地域のブランド作りにつながってくると思います。私が産業建設委員会の委員長をやっていたころ、仙北市で何かお菓子を開発しようということがあり試食したこともありましたが、何年か経ったらとたんに無くなりました。係が変わってしまえば、終ってしまうということは行政の良くない所です。今まであったものを活かしていきたいということで、我々も観光に関係するもので一生懸命模索していますので、市でも力を入れてもらって産業研究所や色んな機関もあるし、地域運営体もブランド品に使ってもいいような経費だと思います。そういったことを活かしていくように、政策を考えていただきたいと思います。

大山商工課参事 ものづくりの上手い方をマイスターとして、作る、指導することで 4人以上集めて実施してもらえれば1日 5000円をマイスターに支給しています。そういった方がいたら、是非推薦していただきたいと思います。年に3~4回の上限はありますが、技術を次の世代に伝えたいいただきたいという趣旨の制度ですので、ご利用いただければと思います。

門協会長 教えてくれる人はいます。ある程度若い人も知っています。技術を伝授されて活かしている人もいます。ただ、皆さんに提供するまではいっていませんが、そういった方々がいます。

佐藤総合産業研究所参事 関連してですが、仙北ばあばあ'Sという組織があります。市長から委嘱して、仙北市の昔ながらの伝統食、伝統料理のレシピの研究事業を展開しています。全市民にそれを周知できていないので、PR方法を考えていかなければならないのかなと思います。

門協会長 後で研究所にご相談に参りますのでよろしくお願いします。

門協市長 マイスターの方の中に、本を出版した方もいます。それは仙北市の郷土・伝統料理集 147 という本です。紙風船上げは、宝物の集まりだと思っています。一晩ですが、その前段で何カ月も準備する期間があります。高齢者の方々が会場にいれなくなっています。ある集落では一斉打ち上げではないときに、集落の会館で家にいる人たちに見せる風船を上げているところもありました。そういった所にじっちゃんばっちゃんたちが御馳走するというので、8つの集落が集まった大会場には来ないで、会館に持っていくということもあるそうです。お祭りを大きくしたことで色んな恩恵がありましたが、見えなくなってしまった部分もたくさんあるようです。そちらを大切な宝物として考えていく必要ではないかと思いました。かと言って、2日間やってほしいという話にはならないと思います。まず一晩はみなさんに見せて、次の日

	に各集落の会館でやってもらえるとしたら少しずつ応援できればいいかなという視点も必要かと思いました。
橋本敦子委員	ばっちゃん達も歳をとって、巻物やお餅はどここの集落も出来なくなって、なくなったとしても自分がかんばって覚えようとする集落もありません。本当に残念です。私の集落では、冬に一人で暮らせないので娘の所に 2 年続けていったおばあちゃんがいました。今年も行くということだったので、私達は 10 月～ 11 月までに巻物等を教えてもらうチームを作りました。そういう意欲がある所は出来ますが、どこも大変だと思います。
門脇市長	市でも研究所で作った伝統料理のレシピを活用してもらいたいと思っていますが、活用してくれる意欲のある人がどれだけいるのかということです。みんなに遍く教えたいと思っていますが、発散しっぱなしで疲れてしまっているという事もなくはないです。やはり受けてくれる人が意欲ある人だとすればありがたいです。
門脇会長	色んな話がでました。今の話合いは意味あるものだと思います。共通事項の部分に移ります。何かありますでしょうか。
佐藤委員	2 つありまして、1 つはかたくり館でやっている紙漉きです。今一生懸命やっているという話ですが、順調に進んでいるのかなという部分があります。それから西木地域を見れば山ばかりです。山を活用したということで炭焼きは昔は盛んでした。今は湯前山にも炭焼きの施設がありますが、炭焼きは継承すべき、残すべき産業の 1 つだと思います。
後藤農林部長	炭焼きの件は私たちも心配しています。去年は小学校の子供達が炭焼き体験をしましたが、現実問題として学校の日程に合わせづらくなっています。何日の何時に炭焼きしたいと逆算をしていかななくてはなりません。それに合わせて炭焼きをする人の確保が難しかったです。これから子供達に体験してもらうというのは厳しいのかなと思いました。むしろ自由にやりたいという人がいれば解放していくのが 1 つの手法かなと思っています。炭焼き小屋の活用は、今までの様な学校行事にこだわらない方がいいのではないかなと思っています。
佐藤委員	誰か技術を持った人がいるということですよ。
後藤農林部長	西明寺の人は都合が悪くて、石神から来てもらったことがあります。
門脇市長	今まで先生をしてくれた方が亡くなられてしまったこともあります。

<炭焼きの現状・担い手・材料についての各種発言>

- 門脇市長 昔は桧木内の炭焼きといえ日本一でした。あの時の山の姿と今の姿は違います。
- 武藤晟平委員 やはり交通関係もあると思います。木を切って出すというのは大変だと思います。
- 門脇会長 しかしいつまでも使わないでいたら、窯が落ちてしまいます。
- 後藤農林部長 材料はこっちで用意するので年に1回でも2回でも使ってもらいたいと思っています。
- 門脇会長 ナラの木がたくさんあるところもあります。そういった山もあります。小学生には炭を作る過程を勉強してもらい、炭焼きを体験はしなくても良いと思います。
- 武藤清茂委員 農業体験や田植えも学校でやり、授業では植えますがその後は全部やっていたいでいます。これが本当に体験になるのでしょうか。農業人口を増やすとか全然違う視点です。学力についても、それなりに頑張らなければならないので、勉強に時間をとります。年間の指導計画の中で、位置づけが段々難しくなっています。総合学習が段々減らされてきています。根本からおかしいです。体験、遊びで終わっている部分、炭焼きを体験しても子供達が本当にやったという実感はありません。農業も植えてくれるし、植え直しもしてもらえます。それで断る所も出てきています。更に減反になっていきいますので、増して大変だと思います。
- 門脇会長 炭そのものは生活必需品とは言えないかもしれないが、米は主食として食べているので、その米の出来る過程を子供が知ることは大切だと思います。炭焼きとは考え方が別だと思いますが、ただ1時間2時間の体験が授業に大きな影響するのでしょうか。
- 武藤清茂委員 やはり継続的にやらなければいけないと思います。植える所まで段取りしてもらえれば面白いと思いますが、その後に草や肥料をやる部分をどう教えていくかという部分が難しい所です。
- 佐藤委員 やっぱこの地域は山です。もう少し山に愛着を持つような方法が必要だと思います。

武藤晟平委員	人口減少で人がいない、高齢者が多くなり色々と悪くなっていけば、とても生活できません。市長が言うように向上を目指して、八方ふさがりの状況の中でもみんなの手を携えて生きていくという方法を考えていかなければならぬと思います。火事や草刈りでは人が集まるということなので、みんなで助け合っていかなければならぬという現実感がでるようなことを考えていかなければならぬと思います。
門脇市長	炭でも東南アジアから出てくるものでバーベキューをやっていますが、例えば秋田県で、県産の炭を使ってバーベキューをやろうというキャンペーンをやったとすれば、本場である仙北西木から復活ということもあると思います。そういう取組は必要だと思います。紙漉きについてですが、かたくり館の体験メニューでありますか。
門脇会長	やっています。八津の方が頼まれればやっています。
門脇市長	紙漉き工房を作った当時は、鎌足の人達全員が紙漉きの技術を勉強しようということで、山形、新潟にいきました。一番の技術者になった方は体調が悪くなり、滞ったことがありました。原料であるこうぞも植えています。
佐藤委員	減反でも何でも植えて、色々地域に広めていければいいのではないのでしょうか。
門脇市長	和紙業界では北でとれたこうぞが一級品だそうです。紙漉きするよりも、こうぞを生産した方が収入になるそうです。
門脇会長	市長。バーベキューとなれば炭を買って若い人たちがやっていますが、今の炭というのは風が吹けばすぐ燃えてしまいます。昔とめ釜で作った炭は、今の炭の3倍は持ちました。そして火力もありました。昔の炭は固くて、カンカンという音になるくらいでした。
門脇市長	子供達に伝えることも重要ですが、それ以前に炭焼きという技術を継承する作業をしなければ、炭焼きの歴史がなくなってしまうのではないのでしょうか。1回教わればちゃんとできるのでしょうか。
門脇会長	はい。自分で窯を作ってやったもんです。
門脇市長	今森林組合では炭焼き、燃料としては使いませんか。

武藤晟平委員	備長炭クラスのはやっていません。
門脇市長	備長炭クラスの炭作りは、森林組合でもビジネスにならないということなんでしょうか。
武藤晟平委員	このような話があったと組合に話します。
橋本敦子委員	炭の歴史というか、今は電気やガスだったりしますが、それが無ければ生活できなかったという部分も覚えておいてもらいたいですね。
門脇市長	炭焼き道場という言い方はおかしいですが、きちんと伝えるということが必要ですね。
門脇会長	案件1については、一気に色んな意見がでたと思います。ただ湯前山については、問題がありますのでそのことをはっきりしてから話したらどうかと思います。ただ視察した際のキャンプ場は、今どのようになっているのでしょうか。草がたくさんあるのではないかなと思います。
橋本副会長	前回視察に行った時に思ったことですが、バンガローにガスボンベがついていると思います。何か月か使わなければガスボンベは外さなければなりませんので、対応してください。一旦外して、春になったらまたつける必要があります。
門脇市長	この場面は適切ではないかもしれませんが、山の幸資料館とクニマス未来館の話をさせていただきたいと思います。
平岡企画政策課長	今田沢湖再生をテーマとしまして、田沢湖クニマス未来館という施設を湖畔に整備したいということで、関係機関と協議し議会にも説明しています。今の所、大沢地区のたっこ茶屋の付近に作りたいということで調整しています。その中で湖畔には田沢湖郷土資料館と、湯前山にある山の幸資料館があります。議会と協議している中で、同様の既存施設があるので、それらを集約しないと維持管理費がかかり増しになり、将来的に大変なことになるのではないかというご指摘をいただいております。私達としては春山にある郷土資料館については、クニマス関連の展示物があるため、それについてはクニマス未来館の中に集約したいとお話ししております。山の幸資料館については林業関係の資料がそろっているので、郷土資料館とは別の位置づけということで、山の幸資料館はこれまで通りの活用をしたいと話しています。

門協会長	山の幸資料館は残すということですよ。
門協市長	出来ればそうすることが、潟前山森林公園の集客や、林業の文化的な継承活動では有効であると思っています。
門協会長	潟前山は景勝地ということで、どうするか皆で話している時に山の幸資料館が無くなるということは非常に寂しい気持ちです。やはり残してもらいたいというのが私の気持ちです。
橋本厚子委員	私もその意見に賛成です。  <出席委員から賛同の声>
門協会長	湖畔のクニマス未来館の中身はどういったものですか。
平岡企画政策課長	色んな位置づけがありますが、今現在は田沢湖再生のための拠点施設であり、将来的にはクニマスの増殖なり、放流なりを目指します。10年20年で出来るものではないと思いますが、観光という位置づけもさることながら、それ以前に田沢湖再生を目的としています。かつての田沢湖を取り戻すための施設ということで考えています。県との協働事業であるため、これから県とも協議してご理解をいただかなければなりません。年度内には目途を付けて、来年度は実施設計までもっていきたいと考えております。
門協会長	湖畔にそういった建物を建てるスペースはありますか。
門協市長	市有地があります。
門協会長	以前、田沢湖マラソンをやるときに山で大変なので、下に道路をつけて田子の木を抜けようという話がありました。
倉橋副市長	自転車道がついています。その周りが市有地になっています。かなり広いです。ただあまり湖畔よりだと自然保護の規制があります。
門協市長	市としては湖畔に面している土地があるのはそこだけです。景観に関して色んな規制がありますので、湖畔にどれだけせり出せるかという部分もあります。湖畔に隣接した公共用地があるということで、そこで田沢湖を眺めながら、田沢湖再生に思いをはせるという施設です。
門協会長	何十年も先になると思いますが、田沢湖が再生した姿が見えるような

施設を作ってください。期待しています。今瀧前山森林公園の再生整備として、キャンプ場が草だらけになっているとすれば、草刈りをちゃんとしてもらいたいと思います。他に何か意見はありますか。

門脇市長

展望台周辺の景観を守るために木を切るということでした。

門脇会長

どこまで借りて、どこまで契約が入っているのかがわからなくて、もう少し調査しなければやりようがない状況です。共有地になっています。調査してもらわなければ、先に進まない状況です。よろしくお願いします。

後藤農林部長

木の伐採部分の費用はもっています。そちらの契約部分がわかれば取組めます。雪が降る前には取り組みたいと思います。会長から協力をもいただきたいと思います。

門脇会長

そうすると議事は2点でした。皆さんから意見がたくさん出ましたので、集約していただきたいと思います。大沢に予定している施設についても、夢のある瀧前山、田沢湖周辺になるようお願いして、会を閉じたいと思います。

(15:30 終了)